

令和 4 年度 施策評価表

第 4 章 『みどりあふれる持続可能なエコタウン』

まちづくりの目標	エネルギーや資源を多量に消費する浪費型の生活を見直し、人と自然がともに生きる、みどりあふれる持続可能なまちをめざします。
分野別計画・指針	所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)、所沢市地球温暖化対策実行計画、所沢市環境教育等に関する行動計画、第三次不老川生活排水対策推進計画、所沢しみどりの基本計画、所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画、生物多様性ところざわ戦略、公共施設緑化ガイドライン、みどりつなぐまち 所沢、所沢市一般廃棄物処理基本計画

第1節	低炭素社会
関係所属	マチごとエコタウン推進課、道路建設課、河川課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「低炭素社会」 所沢市は地球温暖化防止や環境配慮に熱心なまちだ	424	17.4%	165	6.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H28) 現状値	R3年度 目標値	R3年度 実績	達成状況	R6年度 目標値
	市域における温室効果ガス排出量の削減率	%	4.8	11.0 (R2:9.3)	24.9 (R2)		16.1

基本方針		事業目標	単位	現状値	R3年度 目標値	R3年度 実績	達成状況	R6年度 目標値
4-1-1	地球温暖化緩和策の推進	市の事務事業から発生する温室効果ガスの削減率	%	(H28) 15.2	23.6 (R2:21.9)	68.1 (R2)		28.6
4-1-2	エネルギー使用に伴う環境負荷の低減	市域における再生可能エネルギー設備の総出力	MW	(H28) 33.6	39.0 (R2:37.8)	39.1 (R2)		42.6
4-1-3	気候変動の影響への適応	雨水流出抑制指導による施設の設置割合	%	(H29) 100	100	100		100

<p>節の基本方針への取り組み状況</p> <p>前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>ゼロカーボンシティの実現には市民・事業者の協力が欠かせないことから、温暖化対策に係る基礎知識を持ち、自ら環境行動できる人材を育成することを目的として、マチエコリーダー養成講座を実施した。講座には事業者や高校生など、幅広い世代の17名が参加し、基礎編であるSTEP1を修了した。</p> <p>○市の施設から排出されるCO₂については、「株ところざわ未来電力」を通じた環境にやさしい電力の利用及び太陽光発電や小水力発電等による自家消費を継続的に実施するとともに、各施設における省エネ機器等の導入などにより電気使用量が減少したことに伴い、前年度よりもさらに排出量を234t削減することができた。</p> <p>○令和3年度は、市立安松保育園に太陽光発電設備を設置して自家消費により年間3tのCO₂の排出量削減を図ったほか、公共施設へのさらなる再エネ導入と省エネ化を進めるため、「所沢市公共施設等環境配慮推進ガイドライン」を作成した。</p> <p>○温室効果ガスの排出割合が高い民生家庭・業務部門への対策を推進するため、省エネ・創エネ機器の導入及び住宅の断熱改修等に係る経費の一部を助成する「スマートハウス化推進補助事業」を実施した。令和3年度は、家庭、事業者、自治会に対し、各々502件、15件、1件の補助金を交付し、計約578tのCO₂削減を図った。</p> <p>○災害時に電気自動車(EV)を電源車として派遣する次世代自動車災害時電源活用事業について、公用車の活用体制整備、日産自動車との連携協定に続き、令和3年度はEV等を保有する市民を対象としたボランティア制度の受付を開始し、6件の登録をいただいた。</p> <p>埼玉県及び清瀬市と共同で、柳瀬川の浸水被害軽減を図るために取り組んでいる清柳橋の架け替え工事において、橋りょう上部工事に着手し、併せて周辺道路の整備のため、市道1-900号線沿線の用地取得及び市道2-4号線の道路改良工事を行った。</p> <p>開発事業による雨水の流出を抑制するため、開発事業者に対し、雨水抑制施設設置の行政指導を行い、完了検査を受けた全ての開発事業(86件)で設置された。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p>

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 「地球温暖化対策の推進に関する法律」の改正やゼロカーボンシティ宣言、社会情勢等を踏まえ、マチごとエコタウン推進計画の中間改定を行う。
- 市民一人ひとりが気候変動問題について主体的に考え、市域脱炭素化に係る課題点及び方策等について議論してもらう場として、無作為抽出による「マチごとゼロカーボン市民会議」を開催する。会議結果については環境審議会に参考資料として提出し、計画改定に反映させる。
 - 公共施設への再エネ導入をさらに進めるため、太陽光発電未設置の公共施設を対象とした導入調査を実施し、今後の導入計画の基礎とする。
 - 市域の効果的な脱炭素対策として、スマートハウス化補助金の充実(ソーラーシェアリングも含む)、家庭・事業者への環境にやさしい電力の普及をさらに推進する。
- 柳瀬川の治水対策を推進するため、埼玉県及び清瀬市と共同し、河川改修の支障となっている清柳橋の架け替え工事及び周辺市道の整備を進める。
- 河川・水路の氾濫等の軽減及び地下水の涵養を図るため、継続して開発事業者に対し、雨水抑制施設の設置を指導する。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナースhipで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R4.7.29	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子 建設部次長 吉田 進一 建設部河川担当参事 加藤 孝雄
-----	---------	--------	--

第2節	みどり・生物
関係所属	みどり自然課、河川課、公園課、生活環境課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「みどり・生物」 所沢市はみどり豊かで生き物が棲みやすいまちだ	1,310	53.8%	313	12.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	新たなみどりの確保量	ha	55.07	85.00	97.39		98.00

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-2-1	生物多様性への理解の推進	みどりとふれあうイベントの参加者数	人	1,767	2,000	2,246	2,000
4-2-2	人と自然との絆の強化	みどりのパートナーの登録者数	人	1,368	1,405	1,501	1,420
4-2-3	みどりと水の保全	水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業団体数	団体	8	9	9	10
4-2-3	みどりと水の保全	都市公園の整備面積	ha	141.19	144.22	146	148.02

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
みどりの保全のため地域制緑地の指定と公有地化をはかった。地域制緑地は0.56ha(菩提樹池里山保全地域、荒幡富士市民の森、小手指台まちなかみどり保全地区、元町東子ども広場、西住吉みどりのエコスポット)を拡大した。公有地は10筆(北野南、荒幡、山口、上山口地内、市購入8筆:5,177㎡、県購入2筆:2,901㎡)を取得した。
みどりのパートナー制度の周知と参加の案内を継続し、登録団体(2団体)が増加した。
生物多様性への理解を促すため、庁舎1階市民ホールにて環境展示会(見学延べ2,173名)、緑化講座(参加22名)、みどりのパートナー育成講座(参加51名)を行った
クールジャパンフォレスト拠点施設の周辺環境整備の一環として、東川沿いの遊歩道について、桜の剪定並びに維持管理を行った。また、砂川堀において、散策路を208m整備した。
所沢カルチャーパーク事業用地約3,592㎡、鳩峯公園事業用地約4,112㎡を取得するとともに、開発行為に伴う街区公園の帰属について、約333㎡を完了した。
外来生物法の特定外来生物に指定されているアライグマを114頭捕獲した。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
里山保全地域等の地域制緑地の指定を進め、特に保全が必要な緑地は公有地化する。
みどりのエコスポットの整備を通じ、まちなかのみどりを創出することで市民へ憩いの場を提供する。
○みどりのパートナー制度への登録者を引き続き募るとともに、緑化や育成に関する講座を実施し、登録者の活動を支援する。
水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業については、PR活動を推進し、協力団体数の増加を図る。
砂川堀の水辺保全を目的として、川沿いに自然と調和した散策路の整備を進める。
都市公園整備を推進し、用地取得の交渉などを継続的に進めるとともに、配置計画に基づく整備を進める。
埼玉県が策定した「埼玉県アライグマ防除実施計画」に基づき、防除対策を実施し、生活被害の軽減に努める。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公正をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R4.7.29	記入者職氏名	環境クリーン部みどり自然担当参事 池田 淳 建設部次長 吉田 進一 建設部河川担当参事 加藤 孝雄

第3節	循環型社会
関係所属	資源循環推進課、東部クリーンセンター

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「循環型社会」 所沢市はごみの減量と資源化の取組が充実している	945	38.8%	212	8.7%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	市民1人1日あたりのごみの排出量	g/人・日	580.0	577.8	573.4		575.6

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-3-1	『もったいない』社会の形成	総ごみ量に対するリサイクル率	%	28.9	30.9	31.3		32.4
4-3-2	ごみ処理の低炭素化の推進	ごみ焼却発電による場内電気使用量賄率	%	73.83	100	148.40		100
4-3-3	ごみの適正な処理の推進	不法投棄物量	t	26.0	24.4	12.9		23.2

節の基本方針への取り組み状況	
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>更なるごみ減量・資源化を推進するため、ごみ質組成調査や市民意識調査を実施するとともに、所沢市廃棄物減量等推進審議会において経済的インセンティブ手法等を含めた減量方策の審議を進めた。</p> <p>○非プラスチック製容器等への転換を図る事業者に対して、その転換に係る費用の一部を補助し、使い捨てプラスチック製容器等の廃棄量を抑制した。</p> <p>○生ごみ処理機等の購入補助に係る予算を増額し、生ごみの減量・資源化を推進した。</p> <p>○市有施設28箇所にウォーターサーバー(30台)を設置し、マイボトルの利用を促進した。</p> <p>○食品ロスを抑制するため、6月に市民ホールにてパネル展示を開催するとともに、HP、SNSを用いて「食品の手前取り」等の啓発活動を行った。</p> <p>○第2一般廃棄物最終処分場の整備に向けて、搬出入道路用地の購入を進めるとともに、建設事業者の選定を行った。</p> <p>○北野一般廃棄物最終処分場浸出液を確実にかつ適切に処理するため、処理施設の改修に係る基本設計・実施設計等を行った。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p>	

今後の方向性	
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>更なるごみの減量化・資源化を図るため、その方策を市民と共に検討する。また、アフターコロナを見据えて、ごみ減量・資源化の市民活動が再開できるよう支援を強化する。併せて食品ロスやプラスチックごみの削減など、引き続き、市民にライフスタイルの見直しを促し、「もったいない」の心を醸成する。</p> <p>家庭ごみの委託割合70%を維持し、安定的な収集運搬体制を維持するため、清掃等現業業務全体でその実施体制を構築する。</p> <p>○ごみ処理の適正処理を確保し、効果的・効率的な処理を推進するため、東西クリーンセンターにおいて長期包括運営委託の確実な履行等を行うとともに、引き続き、第2一般廃棄物最終処分場の整備に取り組む。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>「市民1人1日あたりごみ排出量」:更なるごみの減量化・資源化を図るため、その方策を市民と共に検討する。</p> <p>○「総ごみ量に対するリサイクル率」:アフターコロナを見据えて、ごみ減量・資源化の市民活動が再開できるよう支援を強化する。</p>	

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
	3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう	レ	14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
レ	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公正をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R4.7.29	記入者職氏名	環境クリーン部次長 大館 真哉

第4節	大気・水環境等							
関係所属	環境対策課、生活環境課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,437人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「大気・水環境等」 身のまわりで空気や水の汚染、騒音、悪臭などを感じない			1,161	47.6%	317	13.0%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	大気環境にかかる環境基準の達成率		%	86.4	93.1	86.4	×	100
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-4-1	大気環境の保全	大気規制対象事業所のばい煙にかかる排出基準適合率	%	100	100	100		100
4-4-2	水環境等の保全	水環境にかかる環境管理目標の達成率	%	100	100	100		100
4-4-3	土壌・地盤環境の保全	汚染拡散防止率	%	87	93	96		100
4-4-4	生活環境対策の推進	苦情相談解決率	%	93.2	94.1	99.1		95.0
4-4-5	化学物質の環境リスクの管理	化学物質排出量	t	26.5	25.8	16.3		25.1
節の基本方針への取り組み状況								
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り 大気環境の常時監視を行うとともに、発生源となりうる事業所への立入検査や指導等を行った。 河川や地下水の水質汚濁の状況を監視、測定するとともに、発生源となりうる事業所への立入検査や指導等を行った。 土壌汚染対策や土砂のたい積規制等を行った。 騒音・振動・悪臭等の公害苦情相談を実施し、早期解決に努めた。 化学物質による環境への影響を未然に防止するため、関係法令に基づき、事業者による化学物質の自主的な管理を推進した。 東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質による環境へのリスクに対応するため、引き続き監視業務を行った(年4回)。 環境推進員連絡協議会と連携し春と秋の「環境美化の日」一斉美化清掃活動を実施した。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析 大気環境にかかる環境基準の達成率については、市内3地点で測定しているオキシダント濃度が環境基準未達成となっている。環境基準の達成が全国的に見ても非常に困難なものであることが理由として挙げられる。</p>								
今後の方向性								
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 大気汚染や水質汚濁について、引き続き状況を監視・測定するとともに、発生源となり得る事業者への立入検査・指導を実施する。 土壌汚染対策や土砂のたい積規制についても引き続き法令に基づき監視・測定する。 騒音・振動・悪臭等については、発生自体を減らしていくために、引き続き啓発活動を実施する。 ○市内で使用されている化学物質について、PRTR制度に基づき、化学物質の性状及び管理、排出状況などの情報を把握し、市民に公表する。 アスベスト対策については、大気汚染防止法の改正などを踏まえ、関係者への周知や指導等を適切に進めていく。 市民参加による環境美化を推進することにより快適な生活環境を確保する。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 オキシダント濃度については、工場・事業場などの排出ガス対策、低公害車の普及啓発等を総合的に推進することでさらなる改善を目指す。</p>								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう	レ	14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公正をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R4.7.29	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子